

民主党市民フォーラム会派行政視察報告書

視察参加者

水野由之 石田浩司 仙石三喜男

視察先

1日目

場 所 北海道釧路市（人口19.1万人）

内 容 ラ・釧評価システム(行政評価)について

日 時 平成15年7月2日（水）9：00から11：00

担当者 行政評価推進副主幹 白幡敏弘

視察報告

ラ・釧評価システム(行政評価)の概要

市の仕事の目的や必要性などをわかりやすく示し、効果・成果や効率性などを検証・評価し、評価結果を公表するとともに、今後の行政運営に反映させようとするものです。

【計画・立案(Plan)】⇒【実施(Do)】⇒【評価(See)】のマネジメントサイクルを使って、市の仕事をレベルアップさせるシステムである。

釧路市が目指す都市像にいかになづけるかという目標を持ちながら、市民に親しみを感じてもらえる評価システムにしたいという願いを込めて「ラ・釧（釧路の）評価システム」と名付けており、市民の満足度の向上のため、① 成果を重視した政策を推進すること。② 市職員の意識改革、政策形成能力の向上を図ること。③ 行政の透明性向上と市民への説明責任の確保に努めることを目指している。

構成は① 政策・施策評価（平成16年度から実施の予定、詳細未定）② 事務事業評価（市全体で844事務事業に分類し、平成14年度と平成15年度の2カ年で、継続して実施しているすべての事務事業を評価する予定）の2層構成による評価をし、市の職員が、「市民の目線による評価」を心がけながら、① 一次評価(評価対象の事務事業の担当職員が、自ら評価)② 二次評価(助役を座長とする職員の評価チームが、一次評価の後に評価します。)の2層構成による評価制度である。

所感

14年度の行政評価は1次評価は415項目あったが抜本的な見直し項目が10項目と行政評価の難しさを感じた。評価を職員が行なってる以上業務を継続させる意識がはたらくは当然のことである。また、2次評価は、政治的なものが大きく左右するも予想され1次評価と違った評価もされる予想がある。これを改善するには外部評価(第三者)制度を導入が必要であろう。



2日目

場 所 北海道根室市（人口3.3万人）

内 容 市民病院建設準備室・病院建替えについて

日 時 平成15年7月3日（木）9：00から11：00

担当者 病院建設準備室室長 菊池崇 病院建設準備担当主査 進藤充則

視察報告

1. 新市民病院建替えの取り組みについて

現在

病床数 199床

診療科目 内科、外科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、整形外科、麻酔科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、心臓血管外科、脳神経外科

医師数 19名

職員数 247名

患者取り扱い数 14年度

入院		外来		合計	
年間	1日平均	年間	1日平均	年間	1日平均
48,244	132	179,633	730	227,877	862

取り組みについて

13年 2月 病院経営健全化指針作成

14年10月 病院経営健全化計画

基本構想策定委託業者選定委員会

15年 2月 市民・外来・退院患者等アンケート実施

5月 病院整備市民委員会設置

所感

病院経営はどこに自治体も大変な状況にある。根室市民病院も例外ではなく不良債務9億8千万と累積赤字をあわせると30億にもものぼる。

病院経営健全化計画を作成し起債をできるように、市民委員会を設置し建て替えの実施計画を10月までに作成する。しかし、状況は大変厳しいものがり、市長の公約、市民の要望でもある市民病院の建て替えは前途多難である。経営改善には医師・職員・市民の協力・理解がないと難しいことを感じた。



3日目

場所 北海道網走市（人口4.2万人）

内容 エコセンター2000（オホーツク文化交流センター）について

日時 平成15年7月4日（金）13:00から14:30

担当者 オホーツク・文化交流センター長 高橋永喜 社会教育課長 伊藤和宏
議会事務局次長 鈴木悟 議会事務局庶務係長 舟生憲次郎

視察報告

1. エコセンター2000（オホーツク文化交流センター）について

建設費 59億4千万（起債90%うち交付税措置55%）

オープン 平成12年11月23日

施設の概要・特色

建築面積1404坪 延べ床面積2507坪 駐車場 298台 駐輪場126台

・高齢者、身体障害者が円滑に利用できるよう特定建築物の建設の促進に関する法律（ハートビル法）による施工

・バリアフリー

・情報センターの設置しパソコン10台を配置

・Lネット受信設備、テレビ会議システムを視聴覚室に設置

所感

網走市は地域公民館が設置をされていない。1億円の市民の寄付が建設に使われているなど市民の皆さんが必要としている施設であると感じた。財政面からは国の地域整備事業などを活用しながら起債をおこし建設が行なわれている。施設はアリアフリーを中心に使用者の意見を取り入れられている使いやすい状況であった。





目線で指導できる机



車椅子用調理台



図書館に置かれている図書カート



図書館の高齢者用の拡大鏡